

ESDに関連する文部科学省及び日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業により行われた研究

(「KAKEN: 科学研究費助成事業データベース」より)

教委131-5

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
1	放射線教育を軸としたESD推進のための学習プログラム開発と理科教員養成	2013年4月1日～ 2016年3月31日 (予定)	科学教育	基盤研究(B)	千葉大学	2,990,000	2013年度:2,990,000 (2,300,000, 690,000)	
2	地理、歴史、公民を関連させた社会科としてのESD実践の構築と発信に関する研究	2013年4月1日～ 2017年3月31日 (予定)	教科教育学	基盤研究(B)	筑波大学	5,200,000	2013年度:5,200,000 (4,000,000, 1,200,000)	
3	ザンビア農村部における持続発展教育(ESD)の理念による環境教育の実践研究	2013年4月1日～ 2016年3月31日 (予定)	科学教育	基盤研究(C)	鳴門教育大学	1,430,000	2013年度:1,430,000 (1,100,000, 330,000)	
4	子供の安心・安全環境に資するコミュニティ機能の維持と地域ESDの構築	2013年4月1日～ 2016年3月31日 (予定)	環境政策・ 環境社会システム	若手研究(B)	京都大学	1,430,000	2013年度:1,430,000 (1,100,000, 330,000)	
5	日本とスロベニアの自然の恵みから未来を創造する力を育むESDの教材開発	2013年4月1日～ 2014年3月31日 (予定)	教育学・教育社会学	奨励研究	広島大学	600,000	2013年度:600,000 (600,000, 0)	
6	日本・中国の生徒の世界認識を広げる新しい漢文学習内容の開発—ESDの視点から—	2013年4月1日～ 2014年3月31日 (予定)	教科教育学I(文科系)	奨励研究	広島大学	500,000	2013年度:500,000 (500,000, 0)	
7	内発的動機を高める国際交流事業とESDをテーマとした英語授業実践の教育的効果	2013年4月1日～ 2014年3月31日 (予定)	教科教育学I(文科系)	奨励研究	奈良女子大学	400,000	2013年度:400,000 (400,000, 0)	
8	インドネシアテンペによる高校生のための国際的農学ESD教材の開発	2013年4月1日～ 2014年3月31日 (予定)	農学・水産学	奨励研究	筑波大学	500,000	2013年度:500,000 (500,000, 0)	
9	消費者市民をめざす小学生のためのESD教育の教材開発	2013年4月1日～ 2014年3月31日 (予定)	生活科学	奨励研究	大分大学	500,000	2013年度:500,000 (500,000, 0)	
10	家庭科におけるESD指導の向上を目指すPIPメソッドプログラム開発の実証的研究	2012年4月1日～ 2014年3月31日 (予定)	生活科学一般	挑戦的萌芽研究	千葉大学	1,820,000	2012年度:1,820,000 (1,400,000, 420,000)	

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
11	ドイツにおける学校環境教育とESDに関する教育学的研究	2012年4月1日～ 2016年3月31日 (予定)	教育学	若手研究(B)	大阪府立 大学	650,000	2012年度:650,000 (500,000, 150,000)	
12	沿岸域における「持続的発展の教育」(ESD)東京湾モデルの開発と展開	2012年4月1日～ 2015年3月31日 (予定)	環境影響 評価・環境 政策→環境 影響評価・環境政	基盤研究(B)→基盤研 究(B)	東京海洋 大学	11,180,000	2012年度:6,110,000 (4,700,000, 1,410,000) 2013年度:5,070,000 (3,900,000, 1,170,000)	
13	ユネスコスクールの質の向上に向けたESD評価手法の分析	2012年4月1日～ 2015年3月31日 (予定)	科学教育	基盤研究(C)	金沢大学	1,560,000	2012年度:1,560,000 (1,200,000, 360,000)	
14	沖永良部島における水資源を活用したESD展開に関する基礎的研究	2012年4月1日～ 2015年3月31日 (予定)	科学教育	基盤研究(C)	常磐大学	2,080,000	2012年度:2,080,000 (1,600,000, 480,000)	
15	生命地域を基礎とした持続可能な開発のための教育(ESD)のモデル構築に関する研究	2012年4月1日～ 2015年3月31日 (予定)	環境影響 評価・環境 政策	基盤研究(C)	中部大学	1,300,000	2012年度:1,300,000 (1,000,000, 300,000)	
16	ESDを推進するための教員リーダー養成プログラムの開発	2012年4月1日～ 2015年3月31日 (予定)	教育学	基盤研究(C)	目白大学	1,170,000	2012年度:1,170,000 (900,000, 270,000)	
17	芸術教育による感性に働きかけるESDの構築-代替案の思考能力の育成-	2012年4月1日～ 2015年3月31日 (予定)	教科教育 学	基盤研究(C)	千葉大学	1,820,000	2012年度:1,820,000 (1,400,000, 420,000)	
18	ESDを目指す高等学校芸術科音楽の鑑賞教育カリキュラムと実践事例の開発	2012年4月1日～ 2015年3月31日 (予定)	教科教育 学	基盤研究(C)	奈良教育 大学	910,000	2012年度:910,000 (700,000, 210,000)	
19	米国スタンダードの分析によるESDを視点とした家庭科環境教育に関する教育内容開発	2012年4月1日～ 2017年3月31日 (予定)	教科教育 学	基盤研究(C)	岡山大学	2,080,000	2012年度:2,080,000 (1,600,000, 480,000)	

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
20	ESDを基盤とした子どもたちの大陸間交流活動とカリキュラム開発に関する研究	2012年4月1日～ 2015年3月31日 (予定)	教科教育学	基盤研究(C)	椋山女学園大学	2,210,000	2012年度:2,210,000 (1,700,000, 510,000)	
21	ドイツの地理教育における「人間—環境システム論」を導入したESD教材開発	2011年8月24日～ 2013年3月31日 (予定)	地理学	研究活動スタート支援 →研究活動スタート支援	早稲田大学	2,600,000	2011年度:1,300,000 (1,000,000, 300,000) 2012年度:1,300,000 (1,000,000, 300,000)	
22	大学教養教育におけるESDとしての地域活性化ワークショップの展開	2011年4月28日～ 2014年3月31日 (予定)	芸術学・芸術史・芸術一般	基盤研究(C)	千葉大学	1,950,000	2011年度:1,950,000 (1,500,000, 450,000)	
23	臨床的アプローチとESDを基軸とした日韓相互理解のための歴史教育の教材開発研究	2011年4月28日～ 2014年3月31日 (予定)	教科教育学	基盤研究(C)	上越教育大学	2,210,000	2011年度:2,210,000 (1,700,000, 510,000)	
24	小学校の外国語活動における遠隔会議を活用したESD(持続発展教育)の教材開発	2011年4月28日～ 2015年3月31日 (予定)	教科教育学	基盤研究(C)	三重大学	2,080,000	2011年度:2,080,000 (1,600,000, 480,000)	
25	「生物多様性戦略」に向けた持続可能な開発のための教育(ESD)に関する総合的研究	2011年4月1日～ 2014年3月31日 (予定)	科学教育	基盤研究(B)→基盤研究(B)	立教大学	18,460,000	2011年度:6,370,000 (4,900,000, 1,470,000) 2012年度:6,760,000 (5,200,000, 1,560,000) 2013年度:5,330,000 (4,100,000, 1,230,000)	
26	「ESD」にアプローチする「地域・世界遺産教育」の創造	2011年4月1日～ 2015年3月31日 (予定)	教科教育学→教科教育学	基盤研究(B)→基盤研究(B)	奈良教育大学→福山市立大学	14,170,000	2011年度:7,800,000 (6,000,000, 1,800,000) 2012年度:3,770,000 (2,900,000, 870,000) 2013年度:2,600,000 (2,000,000, 600,000)	

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
27	地域教材開発力のある 教員の養成方略の創 造-ESD授業開発を通し て-	2010年4月1日～ 2014年3月31日 (予定)	教科教育 学→教科 教育学	基盤研究(C)→基盤研 究(C)	香川大学	4,290,000	2010年度:1,300,000 (1,000,000, 300,000) 2011年度:1,690,000 (1,300,000, 390,000) 2012年度:650,000 (500,000, 150,000) 2013年度:650,000 (500,000, 150,000)	今後実践が求められるESD授業開発 も組み込み、地域教材開発力養成の システム化を図る。
28	東アジア気候環境の成 り立ちと多彩な季節感 を軸とするESD学習プ ラン開発の学際研究	2011年4月28日～ 2014年3月31日 (予定)	科学教育	挑戦的萌芽研究	岡山大学	1,170,000	2011年度:1,170,000 (900,000, 270,000)	
29	家庭科における持続可 能な衣生活と水環境を 基軸にしたESDの授業 開発	2011年4月28日～ 2013年3月31日	教科教育 学	若手研究(B)	岡山大学	390,000	2011年度:390,000 (300,000, 90,000)	
30	コスタリカの生活環境と 広島県の里山海から食の バリアフリーを考える ESDの教材開発	2011年度	教育学・教 育社会学	奨励研究	広島大学	600,000	2011年度:600,000 (600,000, 0)	
31	ESDの視点からの心理 劇を用いた中学校家庭 科の家族・保育学習プ ログラムの開発	2011年度	教育学・教 育社会学	奨励研究	千葉大学	600,000	2011年度:600,000 (600,000, 0)	
32	高等学校理科における 「発酵,微生物,バイオマ ス」をテーマとしたESD 教材の開発	2011年度	教科教育 学II(理科 系)	奨励研究	広島大学	500,000	2011年度:500,000 (500,000, 0)	
33	中学校数学における ESDの観点からの統計 教育の開発・研究	2011年度	教科教育 学II(理科 系)	奨励研究	奈良教育 大学	500,000	2011年度:500,000 (500,000, 0)	
34	ESDの理念に基づく技 術と理科を融合させた ロボット教育の研究開 発	2011年度	教科教育 学II(理科 系)	奨励研究	奈良教育 大学	400,000	2011年度:400,000 (400,000, 0)	

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
35	小学生を対象とした食教育とESDとのクロス学習をめざす「米粉食パン」の教材の開発	2011年度	教科教育学II(理科系)	奨励研究	大分県臼杵市立下南小	600,000	2011年度:600,000 (600,000, 0)	
37	世界地誌学習の再構築に関する理論的・実践的研究	2010年4月1日～2013年3月31日 (予定)	人文地理学	基盤研究(C)→基盤研究(C)	茨城大学	3,120,000	2010年度:1,690,000 (1,300,000, 390,000) 2011年度:1,040,000 (800,000, 240,000) 2012年度:390,000 (300,000, 90,000)	スウェーデンにおいて教材開発のための情報・資料の収集・予備地域調査、国内調査では県内中学校における世界地理について聞き取り調査諸外国の教科書、開発教育・ESD関連書籍等を収集
38	ESDに基づく科学技術リテラシーとPISA型学力育成を目指した新しい教育課程開発	2010年4月1日～2013年3月31日 (予定)	教科教育学→教科教育学	基盤研究(C)→基盤研究(C)	奈良教育大学	4,290,000	2010年度:2,340,000 (1,800,000, 540,000) 2011年度:1,300,000 (1,000,000, 300,000) 2012年度:650,000 (500,000, 150,000)	ESDの理念に基づき、PISA型学力を育成する新しい教育プログラムの開発を試みた。
39	特別活動領域の「ライフデザイン力」育成を核とした食育プログラム開発と効果測定	2010年4月1日～2013年3月31日 (予定)	教科教育学→教科教育学	基盤研究(C)→基盤研究(C)	愛媛大学	4,290,000	2010年度:2,340,000 (1,800,000, 540,000) 2011年度:1,040,000 (800,000, 240,000) 2012年度:910,000 (700,000, 210,000)	「ライフデザイン力」育成プログラムの構築・試行。フェアトレード・アプローチによる「問題解決プログラム」の教材開発を実施。モザンビークの「食とフェアトレード」調査から得られた映像資料を基盤として「国際理解(ESD)と関連化した食育教材開発」を作成。
40	SNSサイトを利用した環境保全に向けた市民の合意形成のための手法構築の研究	2010年度～2011年度	環境影響評価・環境政策	若手研究(B)	中部大学	3,250,000	2010年度:2,470,000 (1,900,000, 570,000) 2011年度:780,000 (600,000, 180,000)	COP10に際して国連大学認定RCE-ESDの一つであるRCE中部(中部ESD拠点)が実施した、SNSサイトを利用した生物多様性に関わる対話プロジェクトに着目して、環境問題解決におけるインターネットを利用した合意形成のための手法研究を行った。

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
41	社会的価値行動促進のための家庭科教育におけるESD教材集作成	2010年4月1日～ 2013年3月31日 (予定)	生活科学 一般	基盤研究(C)→基盤研究(C)	大分大学	2,600,000	2010年度:780,000 (600,000, 180,000) 2011年度:1,040,000 (800,000, 240,000) 2012年度:780,000 (600,000, 180,000)	家庭科教育にESDを効果的に導入するための教材開発を行い、授業実践において検証・修正し、ワークブック等の教材集として実践現場に提案。
42	持続可能な未来のための教育における社会参加アプローチの有効性	2010年4月1日～ 2013年3月31日 (予定)	科学教育 →科学教育	基盤研究(C)→基盤研究(C)	北海道教育大学	2,860,000	2010年度:1,040,000 (800,000, 240,000) 2011年度:1,040,000 (800,000, 240,000) 2012年度:780,000 (600,000, 180,000)	ESD理念にもとづいて、地域環境問題の解決対策リストとスケジュールを仮定した問題解決の対策計画を構想。未解決の地域環境問題を抱えたモデル地域の選定、モデル地域の環境問題、社会・経済問題の実地調査と問題分析、ESD理念にもとづくモデル地域の環境問題解決計画の設定
43	地域持続発展教育プログラムの普及に向けた取り組み	2010年4月1日～ 2013年3月31日 (予定)	科学教育	基盤研究(C)→基盤研究(C)	千葉科学大学	4,420,000	2010年度:1,950,000 (1,500,000, 450,000) 2011年度:1,170,000 (900,000, 270,000) 2012年度:1,300,000 (1,000,000, 300,000)	地域ESDプログラムの具体策として、「銚子ジオパーク推進市民の会」を設立、ジオツアー実施、地域ESDプログラム教材
44	ESDにおける地理学の役割について	2010年度	地理学・文化人類学・地域研究	奨励研究	岩手県立久慈高等学校	480,000	2010年度:480,000 (480,000, 0)	世界各地のRCE拠点で行われている具体的取組を考察し、地理教育がどうかかわり、国民的合意形成に寄与するか研究
45	国内外の乾燥保存食を通して循環型社会を考えるESDの教材開発	2010年度	教育学・教育社会学	奨励研究	広島大学	540,000	2010年度:540,000 (540,000, 0)	家庭科から持続可能な発展に関わる諸問題を学際的かつ総合的に扱うESDへアプローチ。具体的には、そばやじゃがいもの消費の多いロシアを訪問、食文化を中心に取材し資料の充実を図った。

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
46	ユネスコスクール国際交流事業と英語授業との連携を目指したカリキュラムの実践的研究	2010年度	教科教育学I(文科系)	奨励研究	奈良女子大学	380,000	2010年度:380,000 (380,000, 0)	本国際交流プログラム(YES for ESD)は、本校がフィリピン、韓国、タイのユネスコ・スクールと提携し独自に作り上げたプログラムであり、ESDの理念のもと、各学校からの代表が参集し、大会テーマに沿った討議・発表を行うもの。
47	Peer Educationプログラムの再検討と実践的研究	2010年度	健康・スポーツ科学	奨励研究	愛媛大学	560,000	2010年度:560,000 (560,000, 0)	「Peer Educationプログラムの再検討と実践的研究」で、Peer Educationプログラムの開発及び実践とレリバンス検討を行った結果、生徒自らが行動を起こすことで自己の意識変革と行動変容が見られることが明らかになった。Peer Educationという教育手法は、学校保健活動の中でESD達成のために有効で広がりのある方法。
48	アンコール文明と流域環境の相互変遷に着目した「時空を旅するESD教材」の創出	2010年4月1日～ 2013年3月31日 (予定)	科学教育	挑戦的萌芽研究→ 挑戦的萌芽研究	東北学院大学	3,370,000	2010年度:900,000 (900,000, 0) 2011年 度:1,170,000 (900,000, 270,000) 2012年 度:1,300,000 (1,000,000, 300,000)	「時空を旅するESD教材」の出版に至る工程および役割分担の再確認、教材の基本設計、諸資料の整理・分析・加工、欠落情報の補完および主要な関係者・関係機関への協力要請、ビジュアル教材(日本語試作版)の編集。
49	ESDの視点による教科・領域横断的学習活動の構築	2010年4月1日～ 2013年3月31日 (予定)	教科教育学	挑戦的萌芽研究→ 挑戦的萌芽研究	茨城大学	2,830,000	2010年度:1,400,000 (1,400,000, 0) 2011年 度:780,000 (600,000, 180,000) 2012年 度:650,000 (500,000, 150,000)	茨城大学の附属学校園におけるESD実施状況に関する予備調査。年間指導計画に基づき、ESDカリキュラム構造図の作成に着手。

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
50	持続可能な社会の構築のための教育の革新的な教材と教師教育プログラムの開発	2010年度～2011年度	教科教育学	挑戦的萌芽研究	国立教育政策研究所	3,030,000	2010年度:1,600,000 (1,600,000, 0) 2011年度:1,430,000 (1,100,000, 330,000)	三浦市教育研究所、和歌山県教育センターで、ESD用の教材開発を行い教師教育プログラムを開発、実践。和歌山県では、自然災害や世界遺産などESDに関連するテーマでカリキュラム開発。上越教育大学で、ESD用に教材を改善し教員養成プログラムを開発、実践。
51	東アジア等の自然災害に関する防災・減災教育についての日本の教育貢献可能性	2010年度～2012年度	科学教育	基盤研究(B)	上越教育大学	8,710,000	2010年度:4,550,000 (3,500,000, 1,050,000) 2011年度:4,160,000 (3,200,000, 960,000)	東アジア等の自然災害に対する防災・減災についての教育内容・方法の開発に取り組み、開発した教材・プログラムの現地での実践を通して、日本各地域の自然災害の状況や復興への国際協力など、環境教育やESDの観点から集約、整理し、日本の学校教育での国際理解やESDの教材への活用を図る。
52	総合的な沿岸域管理のための協同的基盤構築	2010年4月1日～2015年3月31日(予定)	環境影響評価・環境政策	基盤研究(B)→基盤研究(B)	東京海洋大学	7,540,000	2010年度:2,210,000 (1,700,000, 510,000) 2011年度:1,820,000 (1,400,000, 420,000) 2012年度:1,690,000 (1,300,000, 390,000) 2013年度:1,820,000 (1,400,000, 420,000)	「地域共同体による資源管理」を核として「総合的な沿岸域管理」へと管理形態を段階的に発展させるための基盤構築の手法開発を目的とし、「東京海洋大学江戸前ESD協議会」の協力を得て、「江戸前ESDしながわ塾実行委員会」とともに、連続講座を開催
53	ESDとISOの統合による教育効果の高い総合的環境教育プログラムの構築	2009年度～2011年度	科学教育	基盤研究(C)	信州大学	1,950,000	2009年度:650,000 (500,000, 150,000) 2010年度:650,000 (500,000, 150,000) 2011年度:650,000 (500,000, 150,000)	ESDの理念に国際的な環境規格であるISO14001の手法を取り入れて教育効果の高い環境教育プログラムを構築
54	幼小連携における持続可能性教育の実践的取組の研究:科学性を育む里庭体験の検討	2009年度～2011年度	科学教育	基盤研究(C)	東京家政大学短期大学部→東京家政大学→東京家政大学短期大学部	4,550,000	2009年度:2,470,000 (1,900,000, 570,000) 2010年度:910,000 (700,000, 210,000) 2011年度:1,170,000 (900,000, 270,000)	全国の幼稚園と小学校を対象に、どのように持続可能性教育や科学性を育む自然体験を認識し、幼少連携も含めた実践を調査。身近な自然環境を重視し充実させてゆくことによりESDや幼小連携は推進可能。

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
55	ESD推進に向けた地域の拠点(RCE)の活用とESDの学力向上への効果の評価	2009年度～2011年度	環境影響評価・環境政策	基盤研究(C)	金沢大学	4,550,000	2009年度:2,080,000 (1,600,000, 480,000) 2010年度:1,560,000 (1,200,000, 360,000) 2011年度:910,000 (700,000, 210,000)	ESD推進のための地域の拠点(RCE)の成立、発展プロセスを調査し、その駆動力を解明するため、仙台広域圏(特に仙台市、気仙沼市)及び岡山でのヒアリング調査を実施するとともに、それぞれの地域での関係者による会議を開催
56	環境教育をめぐる最新情報を取り入れた森林・林業専門教育のためのプログラム開発	2009年度～2011年度	教科教育学	若手研究(B)	独立行政法人森林総合研究所	4,290,000	2009年度:1,560,000 (1,200,000, 360,000) 2010年度:1,560,000 (1,200,000, 360,000) 2011年度:1,170,000 (900,000, 270,000)	人材育成として環境教育やESDの推進に貢献するため、森林、林業に関する教材やプログラムの開発を行うことを目的。森林・林業の専門教育に関する教育実態および最新情報を踏まえた内容の検討とプログラムの開発を実施。
57	視覚障害者と協働して展開する森林ESDモデルの開発	2009年度～2011年度	科学教育	基盤研究(B)	愛媛大学	15,730,000	2009年度:7670000 (5,900,000, 1,770,000) 2010年度:4,030,000 (3,100,000, 930,000) 2011年度:4,030,000 (3,100,000, 930,000)	視覚障害者に対応した森林ESDのニーズとハード・ソフト両面の実施環境の問題とポテンシャルを調査、森林ESD教材・プログラムの効果について評価する手法を開発し、視覚障害者と協働して展開する森林ESDモデルを構築。
58	大学の研究、教育、キャンパスを活用した持続可能な開発のための教育のデザインと実践	2009年度～2011年度	科学教育	若手研究(B)	宮城教育大学	4,290,000	2009年度:2,340,000 (1,800,000, 540,000) 2010年度:780,000 (600,000, 180,000) 2011年度:1,170,000 (900,000, 270,000)	大学(大学生)がデザインから実践に至るまでの過程に関与する都市河川の持続的な活用のためのESDを提言、実践することを目指す。気仙沼市教育委員会が刊行した気仙沼ESD共同研究紀要に、これまでの二年間のESD研究活動(本活動)の論点を公表。
59	文系学部における持続発展教育型化学教育コンテンツの開発と教育実践的研究	2009年度～2011年度	科学教育	若手研究(B)	九州大学	2,860,000	2009年度:1,040,000 (800,000, 240,000) 2010年度:1,170,000 (900,000, 270,000) 2011年度:650,000 (500,000, 150,000)	(1)文系学生を対象とした持続可能な開発のための教育(ESD)における化学教育カリキュラムの検討 (2)大学教養科目における持続発展教育型化学教育のための実験教材の開発と教育実践的研究

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
60	住民行動のポイント化と持続可能な地域指標への実践的応用	2009年度～2011年度	環境影響評価・環境政策	若手研究(B)	長崎総合科学大学	2,990,000	2009年度:1,690,000 (1,300,000, 390,000) 2010年度:650,000 (500,000, 150,000) 2011年度:650,000 (500,000, 150,000)	地球環境保全を対象としたものから地域の住民により近い環境指標を策定するため、持続可能な地域づくりに影響を与えるだろう住民の満足度(環境、福祉、生活、経済など)を新しい概念として取り入れ、さらに単一指標と指標群(複数指標)を統合化した階層的な総合指標を目指す。
61	少子高齢化時代における異文化ベースの子育て事例に関する実証的研究	2009年度～2011年度	社会福祉学	基盤研究(C)	横浜国立大学	2,470,000	2009年度:910,000 (700,000, 210,000) 2010年度:910,000 (700,000, 210,000) 2011年度:650,000 (500,000, 150,000)	平成22年度においては、国連「持続可能な開発に資する教育」戦略の骨格を精査した上で、研究対象地域である英国の都市部、欧州小規模都市における社会教育施設を核としたコミュニティでの子育て事例をサーベイし、そのモデル化を行った。
62	教育者養成プログラムの観点からの人権基盤教育学の構築とその国際的検討	2009年度～2011年度	教育学	基盤研究(C)	奈良教育大学	4,420,000	2009年度:1,820,000 (1,400,000, 420,000) 2010年度:1,300,000 (1,000,000, 300,000) 2011年度:1,300,000 (1,000,000, 300,000)	欧州の人権教育の動向分析を重点にしつつ、日本国内の教育者養成研修ならびに大学における教師教育実施プログラムの資料収集・検討(例:大学における教師教育における人権教育関連科目の位置づけ、目標、内容、方法論の検討(持続発展教育(ESD)などとの関連)。
65	東アジアにおける「持続可能な開発のための教育」の学校ネットワーク構築に向けた研究	2008年度～2011年度	教育社会学	基盤研究(B)	聖心女子大学	12,480,000	2008年度:2,210,000 (1,700,000, 510,000) 2009年度:3,250,000 (2,500,000, 750,000) 2010年度:3,510,000 (2,700,000, 810,000) 2011年度:3,510,000 (2,700,000, 810,000)	持続可能な地域社会の構築を目指し、特に東アジア地域における学校教育のネットワークの可能性や課題を明らかにする。特に持続可能な開発のための教育(ESD)の視点、すなわち、環境・社会・経済そして文化のバランスのとれた発展を同地域が遂げるには、学校教育がいかなる役割を担うことができるのか等について検討

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
67	持続可能な開発のための農学教育(Ag-ESD)に関する調査研究	2008年度	農学・水産学	奨励研究	筑波大学	580,000	2008年度:580,000 (580,000, 0)	筑波大学農林技術センターにおいて構築された「わが国の農学教育カリキュラムに関するデータベース(AgBase)」を用いて生物資源科学教育における農学ESD(Ag-ESD)の現状を探ることを目的とし、その第一歩として「環境」に関する授業科目数の長期的変動に関する調査研究を実施。
69	ESDの視点に立つクロスカリキュラーアプローチによる教員開発の政策的研究	2008年度～2010年度	教科教育学	萌芽研究→挑戦的萌芽研究	国立教育政策研究所→東北大学	2,500,000	2008年度:1,300,000 (1,300,000, 0) 2009年度:600,000 (600,000, 0) 2010年度:600,000 (600,000, 0)	知識経済の中での学習というものを追求していく上で、持続可能性、アントレプレナーシップ(企業家精神教育)、グローバル、シチズンシップという将来の力を学習者に身につけさせ、学習者をエンパワーしている事例のリストアップを継続。
74	持続可能な社会のための科学教育を具現化する教師教育プログラムの開発	2008年度～2011年度	科学教育	基盤研究(A)	神戸大学	49,920,000	2008年度:18,070,000 (13,900,000, 4,170,000) 2009年度:12,090,000 (9,300,000, 2,790,000) 2010年度:10,400,000 (8,000,000, 2,400,000) 2011年度:9,360,000 (7,200,000, 2,160,000)	本研究では、「サステナビリティ学」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の射程から構想した新しいタイプの理科教師教育プログラムを開発し、評価することが目的。
77	創造的な理科教員養成を目指した教授学的内容知識の発達支援カリキュラムの開発と評価	2008年度～2009年度	科学教育	若手研究(スタートアップ)	宇都宮大学	3,341,000	2008年度:1,781,000 (1,370,000, 411,000) 2009年度:1,560,000 (1,200,000, 360,000)	理科の教員養成における創造的人材育成を目指して、創造的リフレクションを支援する学習支援システムの導入を通してPCKの発達を促進するカリキュラムの開発・評価。ESDをテーマに、リフレクションを支援するソフトウェアを導入した創造的な理科教員養成のためのカリキュラム開発を行い、実施。

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
89	ドイツ・アメリカ等における持続可能性のための環境教育の新展開と成果の国際比較研究	2007年度～2009年度	科学教育	基盤研究(B)	筑波大学	10,140,000	2007年度:4,680,000 (3,600,000, 1,080,000) 2008年度:2,990,000 (2,300,000, 690,000) 2009年度:2,470,000 (1,900,000, 570,000)	本研究プロジェクトは、日本、ドイツ、イギリス、アメリカ等のESD(持続可能性のための教育)としての環境教育の展開を探り、実践、効果の一端を探った。
95	農山漁村・過疎地域を再生する「持続可能な開発のための教育(ESD)」の実証的研究	2007年度～2008年度	科学教育	若手研究(B)	鹿児島大学	2,440,000	2007年度:1,400,000 (1,400,000, 0) 2008年度:1,040,000 (800,000, 240,000)	本研究は、大学公開講座を活用した専門家、行政職員、市民の継続的な学習を分析することを通して、持続可能な開発の4つの側面である「経済/産業」「環境」「社会/生活文化」「政治」ごとに、地域において解決すべき課題と学習すべき内容について明らかにした。
96	ネットワークと協働を通じた持続可能な発展のための地域社会教育システムの構築	2007年度～2009年度	環境影響評価・環境政策	萌芽研究→挑戦的萌芽研究	神戸大学	3,400,000	2007年度:1,400,000 (1,400,000, 0) 2008年度:1,000,000 (1,000,000, 0) 2009年度:1,000,000 (1,000,000, 0)	地域社会の中に、大学等の高等教育機関を中核とし、学校、市民組織、社会教育施設など、多様な主体間のネットワークと協働を通じて、学校教育を中心とした公的教育と、社会教育や市民活動を通じた学びなどを含む非公的教育を包括した「持続可能な発展のための教育」(ESD)のシステムモデルを構築し、その過程を実践的に研究する。研究方法としては、研究者自身がネットワークやシステム構築を実践、あるいは取組に参画し、その過程を記録、検討、フィードバックする形で進められ、研究とシステム構築が同時進行する。

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
99	持続可能な開発教育と 中米公立大学協会のため の調査研究	2007年度～2009 年度	特別支援 教育	特別研究員奨励費	横浜国立 大学	1,600,000	2007年度:300,000 (300,000, 0) 2008年 度:800,000 (800,000, 0) 2009年度:500,000 (500,000, 0)	ラテンアメリカ諸国における持続可能 な開発のための教育を改善するため、 大学が持続可能な開発のための教育 プログラムを推進するための制度構 築、持続可能な開発のための教育に ローカルな伝統的な知識を科学的に 取り入れるための手法、大学と地域の 連携の3つの検討。
100	人間開発政策における 教育の役割に関する理 論および計量的研究	2007年度～2010 年度	教育社会 学	特別研究員奨励費	東京工業 大学	4,389,980	2007年度:1,100,000 (1,100,000, 0) 2008年 度:1,100,000 (1100000, 0) 2009年 度:1,100,000 (1,100,000, 0) 2010年 度:1,089,980 (1,089,980, 0)	人間開発論における教育の役割に関 する理論研究として、A.Senの人間開 発論に関する理論研究をすすめた。 Senの最新刊“The Idea of Justice”に ついての研究会を主宰し、現在も引き 続き文献解読を行っているほか、開発 途上国だけではなく、先進諸国におい てESDや国際理解教育、開発教育な どの理論および実践研究についての 文献も収集し、解読に努めている。
102	自然環境と地域社会と の関連性を重視した日 本型環境教育の構築	2006年度～2008 年度	科学教育	基盤研究(B)	上越教育 大学	10,660,000	2006年度:5,200,000 (5,200,000, 0) 2007年 度:2,730,000 (2,100,000, 630,000) 2008年度:2,730,000 (2,100,000, 630,000)	国際的なESD(持続発展教育)の内容、 方法の指針を明確にするために、日本 から発信可能なESDの在り方を構築し た。即ち、日本の自然環境に対応した 地域社会の現状と課題をESDや環境 教育の観点から分析し考察を行った。 特に日本海側などの地方に焦点を当 て、災害と資源の両面を持つ自然環境 への対応と調和、科学技術の発展と環 境問題、地域活性化と観光資源開発と の関連性を明確にし、日本型の環境教 育の構造、枠組を明確にした。

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
103	森林を題材とした新しい環境教育の創造とプログラムの開発・実践・評価	2006年度～2008年度	科学教育	基盤研究(B)	鹿児島大学	17,490,000	2006年度:5,400,000 (5,400,000, 0) 2007年度:6,500,000 (5,000,000, 1,500,000) 2008年度:5,590,000 (4,300,000, 1,290,000)	(1) 森林環境教育の多様な広がり、森林・林業の歴史認識、環境教育、野外教育、ESDなどの関連教育分野との関係性、学校教育の中での位置づけ、エコツーリズム、森林ボランティア、障害者活動などの関係において整理し、森林ESDや山村の持続性など、今後につながる視点を提起した。
107	ドイツESD推進プロジェクトの日本での適応可能性に関する研究	2006年度～2008年度	科学教育	若手研究(B)	くらしき作陽大学→作陽音楽大学→作陽音楽大学	3,800,000	2006年度:1,200,000 (1,200,000, 0) 2007年度:1,300,000 (1,300,000, 0) 2008年度:1,300,000 (1,000,000, 300,000)	ドイツの持続可能性教育(ESD)のモデルプログラムである「BLK-Programm "21"」と「Transfer-21 Programm」のカリキュラムやプログラム内容を中心に、学校教育における持続可能性教育の在り方について検討した。これらのプログラム自体は、学校教育において展開されているものの、学校と地域、社会との連携によって成り立っていることが分かった。
109	アフリカでの持続可能な開発を進めるための地域の教育拠点づくりを研究	2006年度～2008年度	土木環境システム	特別研究員奨励費	東京大学	700,000	2007年度:700,000 (700,000, 0)	国連大学が持続可能な開発のための教育(ESD)を世界の現場レベルで推進するために提唱しているESDに関する地域の拠点(RCE)が現在世界で47箇所同大学により認定され、アフリカでも6箇所認定済。アフリカにおいてRCEが果たしている役割、RCEがもたらしている開発過程の変化、RCEが抱える課題を明らかにすることにより、アフリカにおける持続可能な開発にRCEが真に貢献できるように政策提言することが目的

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
111	「持続可能な開発のための教育の10年」に留意した国際理解教育のカリキュラム開発	2006年度～2007年度	教科教育学	基盤研究(C)	文教大学	3,610,000	2006年度:2,700,000 (2700000, 0) 2007年度:910000 (700000, 210000)	本研究では、まずESDの概念および、ESDのカリキュラム開発の手順を理解するための教育研修を行い、実態を把握することを最初の目的とした。また、ESDの具体的なカリキュラムとしては、博物館アウトリーチ教材のコンセプトを応用し、ESDアウトリーチ教材を開発した。
119	アジア太平洋地域の持続可能な開発のための教育に関する国際研究集会に向けた企画調査	2006年度	教育社会学	基盤研究(C)	国立教育政策研究所	2,200,000	2006年度:2200000 (2200000, 0)	理論面においては、本研究は「つながり」をキーワードにESDの独自性について検討した。そこでは、近代化の過程において全体性という感覚を失ってきたという共通認識に立ち、全体性に向けた「つながり」の再構築の営みをESDとして価値づけている。事例研究においては、上記の理論に拠りながら、「つながり」の再構築及び全体性という課題が見出されるものをESDの実践として国内外に求めた。
121	グローバリゼーションの時代における国際理解教育の実践基盤に関する学際的研究	2006年度～2008年度	教育学	萌芽研究	国立教育政策研究所→聖心女子大学	3,000,000	2006年度:600000 (600000, 0) 2007年度:1600000 (1600000, 0) 2008年度:800000 (800000, 0)	第一に、これまでの研究活動を通して培ってきた、現代社会に対応した国際理解教育を再構築するための知見を総括する形で多文化共生社会を構築する上でのキーワードをまとめた。これらは、平成20年度まで継続的に実施してきた他者理解に関する学習会の成果として報告書に盛り込んだ。第二に、新たな時代状況における国際理解教育のための理論や思想が見出せる事例を調べた。この点については、特にESD関連の資料を収集し、調査した。

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
122	生命系・共生型コミュニティ形成をめざす持続可能な社会のための教育に関する研究	2005年度～2007年度	生活科学一般	基盤研究(C)	岩手大学	2,450,000	2005年度:1200000 (1200000, 0) 2006年度:600000 (600000, 0) 2007年度:650000 (500000, 150000)	持続可能な社会の実現に不可欠である生命系・共生型コミュニティの形成をめざすうえで最も課題となると思われるアンペイド・ワークとジェンダーという問題を解決するために地域通貨に着目し、その事例から今後の方策を見出すことが目的。2005年から開始されている「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」および1995年の北京女性会議以降重要視されているアンペイド・ワークへの着目への貢献という意義を有する。「ESDの10年」を提唱した日本の歴史を振り返り、戦後の高度経済成長と教育重視政策の背景に内在していた性別役割分業の体制化とサブシステムの崩壊という側面を、アンペイド・ワークの問題と絡めて省察的に捉えることの重要性について、とりわけ途上国でのESD実践への示唆として整理した。
124	小学校児童を対象とした環境教育および食育教材の開発と教育の実践	2005年度～2006年度	食生活学	若手研究(B)	鹿児島大学	1,900,000	2005年度:1000000 (1000000, 0) 2006年度:900000 (900000, 0)	平成18年度は、まず、環境教育を持続可能な開発のための教育(ESD)という概念に拡張し、環境問題を解決するためにはより広い視野からの教育が必要であることを明らかにした。そこで本研究では、環境問題と同時に食問題を取り上げることとし、環境教育と食教育

番号	課題名	期間	研究分野	研究種目	研究機関	総配分額 (円)	配分額(円) (直接経費, 間接経費)	研究概要
127	自然体験学習系環境教育の指導者養成カリキュラム策定に関する総合的研究	2005年度～2008年度	科学教育	基盤研究(B)	東京農工大学	11,920,000	2005年度:3800000 (3800000, 0) 2006年度:3700000 (3700000, 0) 2007年度:4420000 (3400000, 1020000)	「自然体験学習実践研究教育の指導者養成カリキュラム策定に関する総合的研究中間報告書」を作成、東京周辺の研究者を中心としてグループ会議を定期的に開催、コスタリカ及びブラジルの実践事例とカリキュラムの実態に関する調査などの結果、持続可能な開発のための教育(ESD)を構成する環境教育実践の主要なアプローチとして自然体験学習が位置づけられる可能性が高いことが明らかとなった。
128	中等教育における持続可能な発展を題材とし科学的態度の育成を目指す教材の開発研究	2005年度～2007年度	科学教育	基盤研究(B)	国立教育政策研究所	13,310,000	2005年度:4800000 (4800000, 0) 2006年度:3700000 (3700000, 0) 2007年度:4810000 (3700000, 1110000)	学習教材の開発・改訂および実践として、中・高等学校理科における持続可能な発展に関する教育(ESD)の目的を、科学技術と環境の関係を中心に生活の質の向上を追求していくことと捉え、利害の二面性を理解すること、科学技術者の努力を知ることで科学技術に前向きな意識を持つこと、科学技術に関連する事象を自ら判断・意思決定し活動する意欲を示すこと、の三つの目標を設定。
133	自然災害・防災教育の観点と自然景観理解を取り入れた野外学習プログラムの開発と評価	2005年度～2006年度		特定領域研究	上越教育大学	5,700,000	2005年度:2900000 (2900000, 0) 2006年度:2800000 (2800000, 0)	本研究では、景観にみる恩恵と災害という自然の二面性を教育活動に取り入れる意義と課題を主題とし、自然災害への啓発とESDや環境教育との関わりを示した。